

令和2年度 延岡市立三川内小中学校 学校関係者評価

4段階評価 4 期待以上 3 ほぼ期待どおり 2 やや期待を下回る 1 改善を要する

【学校の教育目標】知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな生徒の育成

評価項目	評価指標	具体的数値目標	方策・手立て	アンケート結果		自己評価		結果の考察・分析(○)及び改善策等(☆)	学校関係者評議会の意見	評価
				保護者	児童・生徒	職員	指標別			
1 学力の向上	基礎・基本の徹底と個別指導の充実	各アンケート結果3.0以上	○個々の発達段階に応じたきめ細かな授業実践 ○学力検査結果を生かした指導の工夫 ○小中連携の促進	3.1	2.6	3.0	3	○ 児童生徒の基礎・基本の徹底と個別指導の充実について、小学校においては乗り入れ授業も充実しており、きめ細かな指導が確立されている。中学部では、特に現2年生のみやざき学習調査の結果では全教科地区平均を大きく下回り、1・2年生の活用問題ではさらに下回っている状況である。過年度までの落ち込みを解消し学びを接続する工夫が必要である。 ○ 小中学部共に、各種テスト及び検査結果により平均に満たない児童生徒の基礎・基本の定着が必要である。 ☆ 小中学部共に、本年度の各種テスト・検査結果を分析し、各個人の課題を共通理解することで最適な個別指導を実践していく。 ☆ 学び続けるため、家庭学習との連携を重要課題とし、家庭で復習できる課題提示に努めると共に、保護者の協力が得られる連携を深める。	○ 今後の日本や社会の動向を見据え、夢や希望にあふれた学習に取り組んでいただきたい。そのために、小規模校の利点を生かした個々に寄り添う教育をお願いしたい。 ○ 新しい学力観を明確に捉え、必要とされるコミュニケーション能力、ディスカッションやプレゼン能力を高めてほしい。 ○ 保護者との学習についての情報交換を実施し、学校の学びを家庭へ、家庭の学びを学校へとつながるように工夫してもらいたい。 ○ 読書は、自身の見識が広がることを理解してもらい、楽しんで読書ができる習慣を確立してもらいたい。	3
	主体的・対話的で深い学習の推進	各アンケート結果3.0以上	○思考力・判断力・表現力の育成 ○言語活動の充実 ○ICTの積極的活用による情報収集能力の育成	3.1	3.7	3.1	3			
	指導力の向上	各アンケート結果3.0以上	○校内研究の充実による授業改善 ○現職教育の充実 ○選択研修の推進による自己研鑽の充実	3.7	3.8	3.2	3			
	家庭学習の定着と保護者との連携	各アンケート結果3.0以上	○ガイドanson機能の充実 ○特別支援教育の充実 ○読書活動の充実	3.1	3.5	2.7	3			
2 心の教育の充実	道徳・人権教育の充実	各アンケート結果3.0以上	○「道徳科」の研修と授業の充実 ○人権教育研修の実施 ○体験活動の充実	3.4	3.6	3.2	3	○ 心の教育の重要性は高く、その指導に当たっては全教育活動及び地域と共に育んでいかなければならぬ。毎週、小中学部が児童生徒理解を共通で実施し、それぞれが課題を意識できることで道徳心の育成、人権意識の高揚、少人数が故に解決しにくい人間関係のもつれやコミュニケーション能力のスキルアップについて学習する機会の工夫ができた。 ☆ 今年度同様に児童生徒理解の充実を図り、一人一人の家族構成や地域との関わりなどの生活環境の把握から学校生活に至るまで、総合的に共通理解できることを最優先とする。 ☆ 教科道徳の指導力向上とキャリアアバーストの活用を徹底し質の高い情操教育に努める。	○ 地域活動に積極的に参加することで、地域の方々へのあいさつや高齢者をいたわる気持ち、ふるさとを愛する心が育つと考える。 ○ 神楽を学校教育へ取り入れたが、このように地域の伝統を受け継ぐ気持ちを育てる教育をお願いしたい。 ○ 各家庭での賛について話し合ったり、考えたりできる講演会等の機会を増やしてもらいたい。 ○ 学校からの行事や進路情報等から諸先生方の生徒への思いが熱いと理解している。来年度以降はキャリア教育に積極的に取り組んで欲しい。	3
	故郷・環境教育の充実	各アンケート結果3.0以上	○環境保護活動の実践 ○行事の精進 ○地域連携活動の促進	3.1	3.4	3.5	3			
	主体性を育む生徒指導の充実	各アンケート結果3.0以上	○積極的・開発的生徒指導の推進 ○生徒指導の3機能を生かした教育実践 ○意図的計画的な自己指導能力の育成	3.5	3.3	3.0	3			
	キャリア教育の推進	各アンケート結果3.0以上	○自己理解・自己管理能力の育成 ○課題対応能力の育成 ○キャリアプランニング能力の育成	2.6	3.1	2.6	3			
3 体力の向上	体育の授業の充実と部活動等の推進	各アンケート結果3.0以上	○保健体育学習の工夫 ○体力テストの分析と実践 ○部活動の推進	2.9	3.2	3.2	3	○ 保健体育学習の運動量の増加、屋休みに運動遊びやスポーツを楽しむ児童生徒の増加は確実に確認できるが、スポーツテストの中止など、運動制限や禁止により数値目標の達成については分析できなかった。生涯スポーツとして日常生活への運動の浸透を目指しているが、SNS利用時間の増加が課題となり、学校外での運動量が増えているとは言がたい状況である。 ○ 食育については、積極的な活動が通常年で見られ、家庭でも意識しているようである。但し、朝食摂取率が100%ではなくかった。SNS利用等による就寝時間との相関が強く考えられる。 ☆ 地域や家庭と課題を共有し、運動の機会を確保できる取組の工夫が必要である。 ☆ SNS利用の必要性と弊害について、学校保健委員会や家庭教育学級等を利用しての学習会の実施により意思の疎通を	○ TVやゲームの時間がが多く体力向上が望めない状況にあるように思う。家庭教育力の向上をるために、学校も協力してもらいたい。 ○ 家族や家族間、または地域で運動できる機会を増やす取組を工夫してもらいたい。 ○ 安全教育は、土砂災害、河川氾濫、火災、津波による避難対応など多岐にわたる災害を想定し、スキルアップを目指して避難訓練等を工夫していただき、危機管理意識を高めてもらいたい。	3
	健康管理の充実	各アンケート結果3.0以上	○自己管理チェックシートの活用 ○健康観察の徹底 ○保健だよりによる啓発の促進	3.1	2.9	3.0	3			
	安全教育の推進	各アンケート結果3.0以上	○安全指導の充実 ○定期的な安全点検の実施と改善 ○体験型訓練(避難訓練、心肺蘇生法等)の実施と防災意識の高揚	3.7	3.9	3.1	3			
	食育の推進	各アンケート結果3.0以上	○意図的計画的な食育指導の充実 ○小中一貫した給食指導 ○弁当の日の実践	3.1	3.8	2.9	3			
4 信頼される学校づくり	保護者・地域との連携の充実	各アンケート結果3.0以上	○学校だより・学級通信・ホームページの充実 ○PTA、コミュニティづくりや協議会、地域団体等との連携・協働活動の促進 ○ふるさと教育教育の充実	3.7	3.6	3.6	3	○ 学校の様子を学校だよりやホームページ、学級通信で積極的に発信することができた。各種行事については、地域や保護者と相談しながら相互理解しての中止や縮小しての実施となつた。小中職員、児童生徒間交流は深まり、達成感の得られる今年度となつた。 ☆ 地域のことを深く考えながら学校教育を進めることにより連携の深まりが見られたが、各種活動の実施を熱望していることには変わりが無く、今年度同様にとどまらず、健康安全を優先しながらも、活動を楽しんでいただく方法を工夫したい。学校教育の啓発については、回観板や地域の掲示板を積極的に活用し、各種行事については新しい楽しみ方を創造していく。 ☆ 学校組織力やコンプライアンス意識の向上、働き方改革は最優先事項と捉え、資源同様に限られた時間、限られた人による工夫された学校教育活動をマネジメントしていきたい。	○ 小中連携は学校行事や学校だより、ホームページ、学級通信から深まりの様子や良好な関係がよく伝わった。高齢者が多い地域の特性から、情報発信にもう少しの工夫をお願いしたい。 ○ 先生方の規範意識は地域の模範となることをふまえ、これからも高い倫理観を備えた教職員であつて欲しい。 ○ 地域活動と共にボランティア活動が縮小されたり、新しい実施方法となつたが、大切な活動であることを再確認し開かれた学校づくりに努めて頂きたい。 ○ 評価方法について、評価項目の見直しや、評価の為の情報提供を積極的にお願いしたい。	3
	小中連携の充実	各アンケート結果3.0以上	○小中一貫した教育課程の編成 ○小中連携した教育活動の実践 ○小・中校務分掌組織の整理、統合	3.6	3.7	3.2	3			
	教職員評価・学校評価の活用	各アンケート結果3.0以上	○PDCAサイクルの徹底 ○ひらかれた学校の構築 ○学校組織力の強化	3.6		3.2	3			
	校内コンプライアンスの推進	各アンケート結果3.0以上	○コンプライアンスチェック・コンプライアンス研修の実施 ○働き方改革の推進 ○職員のメンタルヘルスケア	3.9		3.5	3			